

ポイントは「きれいにしてから出す」

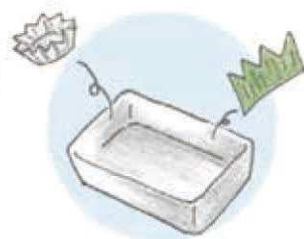
1 プラマークを確認する

基本的には、プラマークが表示されているものが対象となります。マークがなくても材質が、プラスチックで商品を包んでいるもので、商品が消費されると不用になるものはすべて対象となります。



2 異物を取り除く

金属やガラス等の異物が混ざると、分けるのが大変なだけでなく、場合によってはリサイクルするための機械が壊れたり、事故につながる可能性があります。



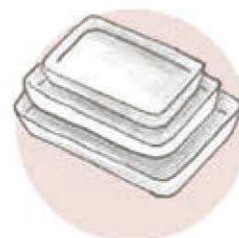
3 中をきれいにして乾かす

食べ残したもののや中身が入ったまま出すと、リサイクルをして良い製品をつくることができなくなります。きれいにして乾かしてから出しましょう。



4 容積を減らす

できるだけつぶして、容積を減らしてから出しましょう。発泡スチロールトレイ等はバラバラにしないで重ねてまとめましょう。



お菓子の袋

中身を払ってきれいにします。



カップめんのカップやトレイ

紙で汚れをふき取ったり、水で洗ったりして乾かします。



迷ったら…

汚れのついているものは、リサイクルの妨げになりますので、迷ったときは、可燃（燃やす）ごみとして出してください。

ボトル類のキャップ

ボトルから外して出してください。



たまごのパック

つぶして容積を減らします。



ラベルシール

紙製のラベルやシールが貼ってある場合、簡単に取れるものは取ってください。簡単に取れないものは、そのまま容器包装プラスチックとして出してください。

小袋には入れないで

容器包装プラスチックは直接指定袋に入れてください。一旦、レジ袋等の小袋に入れてから指定袋に入れると、リサイクルのための選別作業に支障が出ます。